



令和七年二月号(第八十号)

恵久美を元気にする会
090-3184-4467

カラ版は
こちら



受け継がれて凡そ百年三世代

「木のせいろ」に侘び寂びの世界が生きる

昨年12月30日恵久美地区南部を流れる神寄川河畔にある大政浩史さんの倉庫で恒例の餅つきが行われました。家族揃っての餅つきには決まって約30センチ角の古びた「木のせいろ」が使われます。当日訪問した際にも、周辺の田園風景を借景として立つ凜とした姿がありました。

曾祖父の大政秀雄さんが20歳の時、購入された「木のせ



いちゃんや親父から継いできた代物やし、木の温もりも感じられるから、癒されるし、なかなかよう変えれんよ・・・。」とは浩史さん。ところどころに残る修理の跡に、丁寧に紡がれてきた時間の証がありました。その佇まいには、日本の「侘び

いろ」です。以来、父・正義さんそして浩史さんへと三世代に亘って受け継がれてきました。その四角い簡素な作りは、静かな存在感を放ち、今も現役として活躍しています。「木製やから隙間から蒸気が漏れて効率が悪いんよ。金属製に変えてもええんやけど、何度も修理して使っとうちに自然に愛着が湧き、じ

うちや親父から継いできた代物やし、木の温もりも感じられるから、癒されるし、なかなかよう変えれんよ・・・。」とは浩史さん。ところどころに残る修理の跡に、丁寧に紡がれてきた時間の証がありました。その佇まいには、日本の「侘び

と「寂び」の世界が映し出されていきます。マキで湯を沸かし米を蒸す。周りに家族や親戚が集まり暖をとる。それとなく会話がはじまる。そのうちに米が蒸されてぶくんといひ匂いがしてくる。蒸しあがつたよ。何気のない情景の積み重ねが家族の絆を深めているようです。使い込まれた木目や少しづつ変化した色合いは、「木のせいろ」が家族とともに歩んできた物語を語りかけていました。

千利休が大成した「侘び」と「寂び」の世界観は、人間の生き方や他者との関わり方にも影響を与えています。物質的な豊かさよりも心の豊かさを重視し、不完全なものに宿る美しさや深みを受け入れることを教えてくれます。それは、他者を敬い、欠点も含めて認め合い、静かに信頼を築く関係性そのものです。

巷ではハイパーだタイパだとコスパ重視のご時世ですが、非効率な物を愛おしむ心は、まだまだ恵久美に息づいているようです。

恵久美通信編集長 山本正司

無病息災の炎 天高く燃ゆるどんど焼き

去る1月13日(月) 恵久美グラウンドにおいて、恵久美地区恒例「どんど焼き」の行事が実施されました。

「どんど焼き」は、日本各地で行われる伝統的な行事で、恵久美でも新年の行事の一環として毎年この時期に実施されています。正月飾りやしめ縄といった正月の神聖な飾りを燃やすことで、年神様を天に送り返すとともに、古いものを燃やし新しい年に向けて心機一転する行為でもあります。燃え上がる火の勢いやその煙と竹の破裂音は邪気を払う力があると信じられており、どんど焼きの火にあた



ることで1年の健康や厄除けを願います。

当日は薄曇り気温4度という厳しい寒さにも関わらず多くの方が参加され、賑やかな雰囲気の中、喜安区長と子ども代表の拝礼により始まりました。クライマックスの点火は、子ども代表5人と老人部の皆さんが参加して一斉に点火。恵久美地区の無病息災を願いを込めて竹の破裂音が響き、どんど焼きの炎は勢いよく燃え上がりました。最後は、恵久美消防団の協力を得て参加者全員で消化訓練を行いました。

また今回は、5年振りに旧ダイヤモンドスマイルさん手作りのぜんざいが復活し、絶品の味に堪能し身も心もホットホットになつて無事終了。

「どんど焼き」は、単なる行事ではなく、「地域住民のつながりを深める」「伝統文化を継承する」など、深い意義があります。今後も守り続けていきたいものですね。

恵久美通信編集長 山本正司

食べることは生きること

小林防災士の防災豆知識

阪神淡路大震災から30年間変わらなかつた避難所のあり方が見直されはじめました。NHKの朝ドラの「おむすび」で東日本大震災の避難所に入った栄養士が「避難所の食事状況はどうなっていますか？」とスタッフミーティングの時に質問すると、医師のリーダーが「食べ物の事は後や」と発言を止められます。



実際の生活では1カ月おにぎりとカップラーメンしか食べない現状。我慢するしかないと思いがちですが、誰も栄養の事を考えない最悪な時に栄養士の女性が反対にあいながらも自分で考え動き、温かい炊き出しを作りました。津波で入れ歯がなくな

り、おむすびが食べられない高齢者にはおじやを作り出した「うめー、久しぶりに米を食ったがや」と笑顔を取り戻すシーンに胸が熱くなりました。災害で直接亡くなる方も多くいますが、災害関連死も多く発生しています。

熊本の災害時には直接死50人に対し関連死が218人と大きく上回っています。原因は避難生活の肉体的、精神的疲労の蓄積です。人知を超える災害では防げない直接死と行政が努力をすればゼロにすることも可能だと信じています。精神的にも肉体的にも疲労した時に、毎日菓子パンか冷たいおにぎり、カップラーメンを食べ続ければせっかく災害で生き残った命も途切れてしまいます。人口が減少して経済が成り立たなくなる地方の人口をさらに削り取り、復興しても人のいない町になります。関連死を防ぐにはTKB（トイレ、キッチン、ベッド）これが絶対に必要になります。政府も関連死を防ぐために今年からトイレカー

やキッチンカーの導入に舵をきりだしました。早い自治体ではすでに動いています。宇和島市では既に配備している多機能型の3台のトイレカーに加えて水を使わないラップ式トイレを5年かけて680台導入する事になっています。松山市でもトイレカーの導入が決まり、30年かかりましたが、避難生活をかえねばならないと具体的に動き出しました。松前町では介護給食をしている会社 福八モテナスに災害時に普通食も介護食も作れるキッチンカーがあります。黄色と白のトラック型のキッチンカーです。松前町のイベントや字の文化祭や避難訓練にも参加しています。欧米では非常食というものは無いそうです。災害時にはキッチンカーが温かい食事を出すのが当たり前で、トイレ、シャワー、コインランドリーが政府に委託された民間団体が派遣されるからです。災害大国日本をどうかえていくか、それは皆さんの関心にかかっています。

恵久美防災士 小林祐介

スチール缶引き取り中止

恵久美資源再利用を推進する会

いつもリサイクル活動にご協力いただき誠にありがとうございます。皆さまのご理解とご協力のおかげで、地域の美化や環境保全が進んでおります。この度、左記の諸事情により、スチール缶の引き取りをやむ無く中止させていただきます。

●実施日

平成7年2月1日より

●中止の理由

①リサイクル業者の受け入れ

基準の変更

リサイクルマークが入ったスチール缶であっても、引き取ってもらえないケースが増加し、適正なりサイクル活動が困難となっています。

②分別の複雑化

スチール缶に混入する異物や素材違いの缶が増加し、分別作業が非常に複雑化している為、正しいリサイクル活動が進みにくくなっています。

③引き取り料の低下

リサイクル市場の変化により、スチール缶の引き取り料

が大幅に下がり、維持が困難な状況にあります。

●今後の対応について

スチール缶の処分方法については、松前町のルールに従い、分別ルールに沿って処理していただきますようお願いいたします。引き続き、他のリサイクル資源の分別については従来どおりご協力をお願いいたします。

地域住民の皆さまにはご不便をおかけいたしますが、持続可能なリサイクル活動の為、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

恵久美環境部

部長 山本正司

恵久美新役員ご紹介

令和7年より恵久美評議員が次の方になりました。

- 向居 郷田真一（向居西）
- 町田 中川功次（町田東）
- 岡田 渡辺史郎（岡田北）

2月の行事予定

恵久美組対抗レクバレー大会
期日 令和7年2月16日(日)
場所 岡田中学校体育館